



工事が原因では

答 十分指導する

問 野村安夫

用居地区の砂防えん堤は、増水時に濁流となり泥水が下流住民に悪影響を与える。

水道汚染、川魚の激減を防ぎ、清流に戻す手立ではないか。

答 池川地域振興課長

えん堤の構造上、堆積土砂の取り除きは慎重に対応し、降雨後の河川の状況を調査する。

問 野村

数年前のえん堤上部での工事が原因ではないか。

答 池川地域振興課長

工事に関する濁りの防止対策は、十分指導する。

国道439号線に光を

問 野村

21年2月、永代橋から池川土居地区まで、見通しの悪い箇所、危険箇所、道路幅の狭い箇所の点検をしたが、進捗状況と見通しは。

答 池川地域振興課長

要望の優先順位など協議し、用地の問題ない箇所から順次整備を進める。

問 野村

国道改良工事の、土地の交渉は誰が対応しているか。

答 池川地域振興課長

用地の調査などは地域振興課で、事前の話は越知事務所がしている。最後に中央西土木事務所との用地係が対応する。

改良を早急に

問 野村

町道坂本ツボイ線の改良工事の進捗状況と用地交渉の状況は。

答 池川地域振興課長

地元による用地の取りまとめができ次第、実施に向け働きかける。

土地交渉は

問 野村

スーパー林道が良くなっても、接続する道路が整備されないと価値は半減するので、早急に整備を。

土地交渉も区長だけに依頼するのではなく、町職員も共同作業で、専属職員を置き対応してもらいたい。

答 町長

関係機関に働きかけ、一定の条件が整えば整備できるよう努める。本庁、両支所に専属職員の配置は難しい。



国道494号線



定住支援策

答 補助事業を活用

合併後5年で千人弱減少、高齢化率も48・7%に上がった。地域活性化に若者定住が最良の方法だが、課題が多く特効薬がない。実効可能な施策を見極め、効率的に実施する。

遊休の町有地払い下げなどと共に、有利な補助事業などを活用し、若者定住につながる条件整備を進める。

答

町長

問

山口芳正

少子高齢化により集落や学校の存続まで困難になりつつある。若者減少には結婚、教育、住居、雇用などの問題が重なり、困難な状況にある。

町は若者定住の大きな柱を掲げ、定住支援策の充実に努めるよう熱望する。

池川郷土館及び図書館は

問

山口

池川郷土館は危機的な状況だ。

図書館は保健センター2階に移り、少量の本が配置されるのみである。どのような活用、運営を考えているか。

答

町長

すべての収蔵物の点検と分類整理を19年度から始め、ほぼ完了した。建物が老朽化しており、長期使用は難しく、活用と保存を検討している。

図書は3600冊所蔵、22年度は町内全体の読書推進計画を作成中である。合築予定の県民、市民図書館とも協議中で、本町の図書の在り方を考えている。

コラム



仁淀高校の3年間

私が仁淀高校に入学したとき、仁淀高校は私たちが卒業する時に閉校という、暗い先行きを感じながら入

で、今までの描く高校のイメージとは違って、少しガツカリ、反面、気楽に生活できてよかったと思いました。

少人数校ということ
で、特別な行事や、活動ができ、良くも悪くも思い出に残って、青春を体験することができました。毎日楽しかった、学校生活をありがとう。

(川渡) 大黒 真寿実



池川郷土館 (築57年)

用居集いの館 エレベーター

問
山口

用居集いの館には現在、1世帯が入居しており、身体が自由なためエレベーター使用の要望があると聞く。
今後の入居者を増やすためにも、使用許可が必要と思うが。

答
町長

在宅での環境が整うまでの入居で、当初は必要なかったが、身体状況から判断し、エレベーター始動の予算を12月補正に提案。

地域の再生は

問
山口

各集落とも耕作放棄地や放置林が目立つ。体験型農林業の研究、健康農作業の開発など新しい発想の人材育成、専門職員の配置はできないか。

答
町長

普及所、林業事務所、各種組合などと連携が重要である。現在は、プロジェクトチームで対応している。
研修など職員の知識、技術の向上を図り、基幹作物の商品化、ブランド化につなげていく。

問
西森久雄

本町の美しい四季を通して、一泊二日の観光ツアーの取り組みをしては。

ツアーの取り組みは

答 現在のイベント中心

答
企画課長

現在の各イベントは、それぞれが個々に取り組んでおり、つながりのある催しになっていない。一泊二日の滞在型ツアーは、町の利益にもなり、お客様の印象にも残る。
6町村の広域観光振興を目的に、11月に発足した仁淀川地域観光協議会の活動を通じ、現在のイベントを中心に取り組みを進めたいと考える。

小中学校のテスト類への補助を

問
西森(久)

各学校、学年によって種類や金額はさまざまと思うが、本来、公費で賄うものと考え。
この町は、一人一律千円を町が負担しているが、本町では。

答
教育長

※CRTテストなどは補助事業等で行っている。
22年度から、就学援助家庭には学級費相当の支援を計画している。
保護者からの要望などで、全体的に必要な経費は考える必要があるので、学校長と相談しながら様子を見ていきたい。



大崎小授業風景（真剣に学んでいます）

※ CRTテスト
年間の指導目標の実現状況を確認するためのテスト